

RDA 6th Plenary (パリ)

参加は自由、個人の加盟も
自由(オンライン登録)

- 日程: 2015年9月23 - 25日
- 場所: CNAM (仏国立工芸院)、パリ
- 総参加者数: 推定700名超(過去最大か。)(前回(RDA-P5サンディエゴ)330名超に対し大きく増。)
- 来賓: 仏デジタルテクノロジー担当相、ECコミッショナー(デジタル経済・社会担当)、EC研究イノベーション総局長、等
- Working Groups + Interest Groups = ~ 60



RDA-P6概要

- 主眼：WGからのアウトプット総括、Adoption、利活用・応用への視点
- これまでのWG、IG (Interest Group) 等の合同セッションも目立った
- 各WG・IGからも、米欧豪以外の国の巻き込みを図り始めたもよう
 - RDA/US、RDA/Europeがこれまで主体で立上げ。
- アジアでは、日、中、台湾、等(各々数名～8名程度か)
- 国際組織間の共同、連携も充実してきている
 - CODATA、WDS、DataCite、DSA、ORCID、...

RDA活動の推進、支援状況

- 国際活動への支援はどの国も容易でない
 - 初期投資国(米欧豪)以外の国(日本、中国など)からの資金が強く望まれている(G8+O6データインフラストラクチャWGなど)
 - 公的資金・予算配分の意思決定プロセスが欧米と日本で違う
 - NSF、EUは国際的なグループ作りを推進。日本が主導する方法論から提案・議論すべき？
 - NSFやECには国際調整事業・実験のための競争的資金があるらしい(国際的な主導権を握るためにはこれが重要)
- 次回RDA-P7@東京
 - 2016年3月1-3日@一橋講堂(東京都千代田区)
 - プレイベント:2016年2月29日@一橋講堂
 - 研究者・専門家コミュニティの自発的アクションを励起する必要
- “RDA/Japan”?
 - ○ RDA/US, RDA/Europe
 - 関係者(JST?、NII?、AIST?、SCJ?、NDL?、...)
 - 科学技術・学術等データ保有/管理者、国際組織(WDS、CODATA、ICSTI、W3C...)、情報学・計算機科学・IT、各研究分野専門家(+関係学協会)、図書館・博物館、IT/ICT産業界、法律家...



Research Data Alliance
Plenary Meeting 7
1- 3 March 2016, Tokyo, Japan

research data sharing without barriers
rd-alliance.org

シンポジウム:
科学の発展への起爆剤
～データ駆動型科学の推進に向けて～

内閣府
文部科学省
国立研究開発法人 科学技術振興機構
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
国立研究開発法人 情報通信研究機構
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
大学共同利用機関法人 国立情報学研究所

2016年2月29日
一橋講堂

CODATAジャパン・データサイテーション・ワークショップ

- 日程・場所：2015年10月29日（木）、国立情報学研究所12F
- 「CODATA-ICSTI Task Group on Data Citation Standards and Practices」が主催
 - TG共同議長：C.Borgmann (UCLA；今回基調講演)、J.Braser (独ゲッティンゲン大学図書館)、M. van Deventer (南ア科学産業研究会議)

CODATA: ICSU科学技術データ委員会 (Committee on Data for Sci. & Tech., 1961年創設)

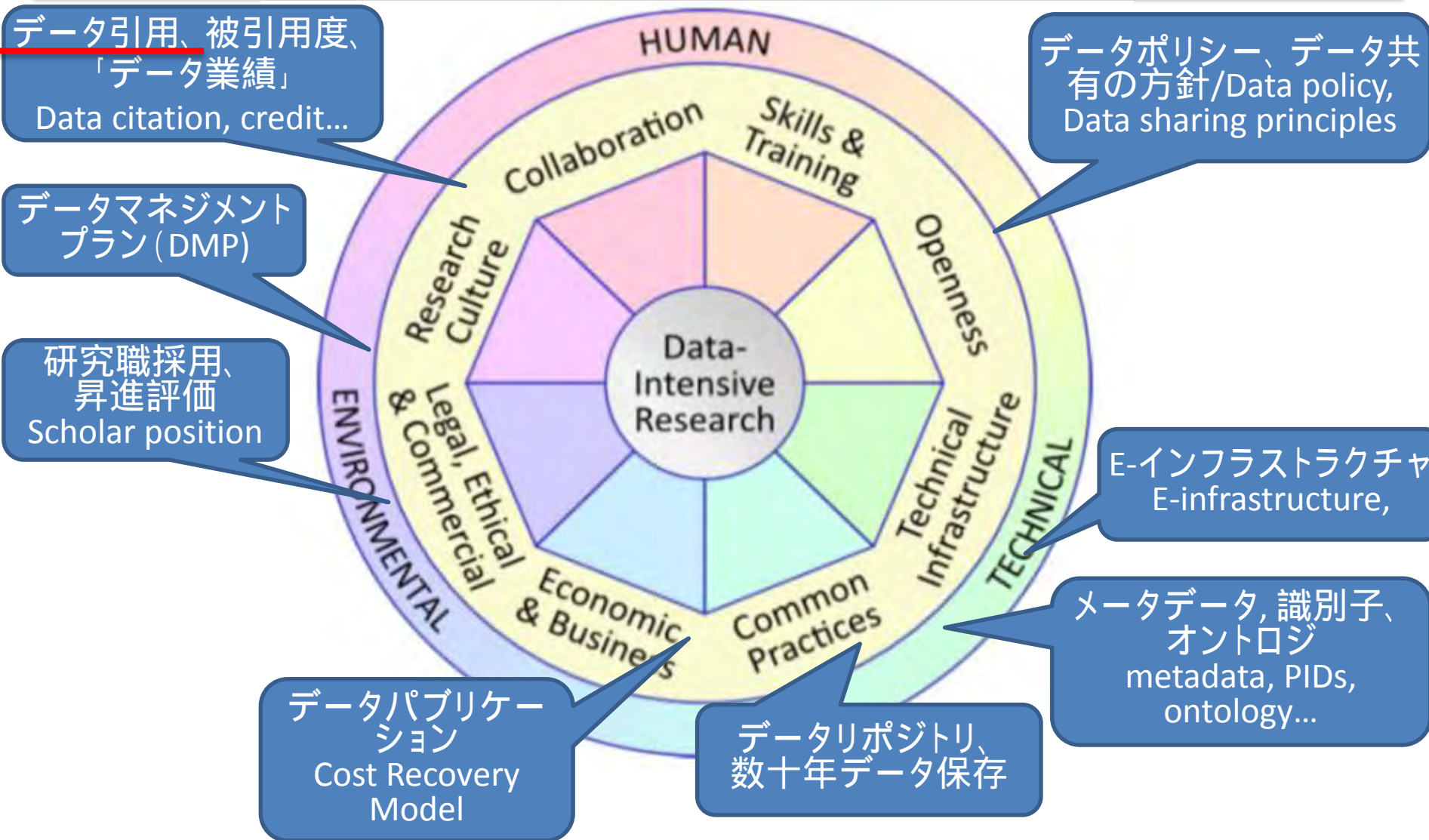
ICSTI: 国際科学技術評議会 (Intl. Council for Sci. & Technical Info., 1984年創設；前身のICSU Abstracting Boardは1952年創設)

- 共催：情報通信研究機構、後援：ICSU-WDS
- 協賛：日本地球惑星科学連合、情報知識学会CODATA部会
- 国内世話人グループ：村山泰啓 (CODATA-TG、NICT)、安達淳 (NII副所長)、小関敏彦 (東大副学長、CODATA)、水野充 (JST、前JaLC副委員長)

国際連続ワークショップの1つとして開催

- 中国 (8/25)、豪 (10/28)、日本 (10/29)、印 (11/5-6)、南ア (12月予定)、米 (2016年3又は4月に予定) . . .
- 共同議長かCODATA役職者が1名、必ずワークショップに参加する。

“Building Blocks of Data, Science, and Practices”



↑ https://www.rd-alliance.org/filedepot_download/383/230

- RDA Community Capability Model Interest Group
 - Secretary: Univ. of Bath & Microsoft Research Connections